

第4学年 体育科 学習構想案

日 時 令和3年11月10日（水）第5校時

場 所 体育館

指導者 教諭 谷水 佑太郎

1 単元構想

単元名	マット運動		
単元の目標	(1)運動の行い方を知り、自己の能力に適した基本的な技を身に付け、それらを組み合わせることができる。 (2)自己の課題を見つけ、解決のための活動を選び、見付けたポイントを伝えることができる。 (3)運動に進んで取り組み、きまりを守って仲よく運動し、場の安全に気を付けることができる。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①マット運動の行い方を知り、基本的な技を身に付けている。 ②しゃがんだ姿勢から体を丸めながら回転している。 ③手や足で体を支えて回転している。	①技のできばえを視覚的に振り返って、自己の能力に適した課題を見付けている。 ②自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための練習の場を選んでいる。 ③課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。	①回転したり、逆位になったりするなど、マット運動の基本的な技に進んで取り組んでいる。 ②きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合っている。 ③準備や片付けを、友達と一緒にしている。 ④技がうまくできたときの動き方や気付いたことなどを伝え合う際に、友達の考えを認めている。 ⑤場の安全を確かめている。
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
自己の能力に適した課題を見付け、課題を解決するために考えたことを友達に伝えたり、友達の考えを認めたりしながら、運動に進んで取り組む児童。			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
技をきれいにを行うためにはどうすれば良いか考えて、友達とアドバイスをし合おう。		回転系や技巧系の技の動きを「する」、友達の動きを「見る」、友達と協力したり助言したりして「支える」、技のポイントや体の動かし方を「知る」といった運動の多様な関わり方で、マット運動の喜びや楽しさを味わうこと。	
指導計画と評価計画（6時間取扱い 本時5/6）			
過程	時間	学習活動（「問い」を設定しても可）	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認 ・試しの運動	【態⑤】（観察） ○場の安全に気をつけている。
二	3	○感覚づくり運動 ・ゆりかご ・うさぎとび ・かえるの足うち ・ブリッジ ○回転系の技の学習 ・前転 ・開脚前転 ・後転 ・開脚後転 ○技巧系の技の学習 ・側方倒立回転 ・ロンダート ・補助倒立ブリッジ ・倒立ブリッジ	★【知②③】（観察・学習カード） ○しゃがんだ姿勢から体を丸めながら回転している。 ○手や足で体を支えて回転している。 ★【思①】（観察・学習カード） ○自己の能力に適した課題を見付けている。 【態①②③】（観察・学習カード） ○マット運動の基本的な技に進んで取り組んでいる。 ○きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合っている。 ○準備や片付けを、友達と一緒にしている。
三	2	○技の組み合わせを考える ・自分の課題に合った場所で練習する。 ・課題を解決するための考えを伝え合う。 ・自分の能力に適した技を選び、組み合わせる。 ○技を組み合わせて発表する。 ・前転系、後転系、技巧系の技を組み合わせて発表する。	★【知①】（観察・発表の記録） ○基本的な技を身に付けている。 【態②】（観察） ○自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための練習の場を選んでいる。 ★【思③】（観察・学習カード） ○課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。 ★【態④】（観察） ○気付いたことなどを伝え合う際に、友達の考えを認めている。

4 本時の学習

- (1) 目標 自己の課題や友達の課題を解決するために、見付けたポイントや考えたことを伝え合うことができる。
(思考・判断・表現)

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	5分	1 課題をつかむ ①準備運動をする。	○体育係を中心に、しっかりと体を動かして準備運動をする。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【めあて】 組み合わせ技をより良くするために、友達とアドバイスし合おう。 </div> ②本時の学習の流れを知る。 ◇回転技と倒立技を組み合わせるんだな。	○前時までの活動を振り返る。 ○組み合わせ技に挑戦することを伝え、これまでに取り組んだ技を確かめさせる。 ○技のポイントを確認することで、ポイントをおさえて友達にアドバイスできるようにする。
展開	30分	2 課題の解決に向けて活動する。 ①自分に合った場で苦手の技に挑戦する。 ◇坂道を使って後転に挑戦しよう。 ◇マットを組み合わせ、真っ直ぐ転がる練習をしよう。 ◇テープを使って真っ直ぐ側転をする練習をしよう。	○組み合わせ技に向けて、まず苦手の技を練習させ、課題を確かめる。 ○自分の課題を解決するための練習場所を選ぶ。
		②組み合わせ技に挑戦し、友達にアドバイスをする。 ◇もっと脚を開いてひざを伸ばすといいよ。 ◇手でしっかりマットを押して立ち上がるといいよ。	○タブレットを使って動画を撮影しながら、グループ内で順番にアドバイスをしていく。 ○アドバイスが上手な児童を紹介することで、ポイントをおさえた質の高いアドバイスができるようにする。
終末	10分	3 めあてに対する振り返りをする。 ①今日の学習を振り返る。	○学習カードに振り返りを書く。 ○友達とどんなアドバイスをし合ったかを振り返らせる。
		②次時の学習内容を知る。	○次時の学習で発表会をすることを伝える。

【めあて】 組み合わせ技をより良くするために、友達とアドバイスし合おう。

【学習課題】
 組み合わせ技をよりよくするためには、友達にどのようなアドバイスをすればよいだろうか。

【期待される学びの姿】
 ● 基本的な技を組み合わせ、技のポイントを確認しながら、友達の課題解決のためにアドバイスをしている。

【具体的評価規準】 思考・判断・表現
 ○ 技のポイントをおさえながら、課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。(方法：観察・学習カード)

【到達していない児童への手立て】
 ○ タブレットを使って技のポイントを確認しながら、まずは1つの技についてアドバイスができるようにする。

【まとめ】 友達とアドバイスをし合うことで、より良く組み合わせ技を行うことができた。